

# 第12回「日本語大賞」

テーマ「心にひびいた言葉」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「『また明日』ってまた言いたい」

東京都

白百合学園小学校

小学四年 郷原 愛理

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「また明日」ってまた言いたい

白百合学園小学校 小学四年  
郷原 愛理(こうばら・あいり)

「また明日」

わたしは友達とさよならする時、そう言い合ってわかれる。一人になっちゃうな、さびしいなと思うけれど、「また明日」はまた会えるということでもあるから、少しさびしさがまぎれる。それに、明日の休み時間はおしゃべりしよう、とか、おにごっここの続きをしたいな、とか考えながら帰るのは楽しい。わたしは、そういう日常を送っていた。

ところが、新がたコロナウイルスの流行によって、その日常は変わってしまった。とつ然学校が休校になって、しばらく行けなくなってしまったのだ。毎日のように「また明日」と言っていてわかれていたけれど、次はいつ会えるかわからなかったから、その日は「またね」とだけ言ってわかれた。友達とは必ずまた会えると思っていたから、大きな不安はなかったけれど、会える日がわからない事はとてもさびしかった。

「また明日」と言っていて友達とわかれて、次の日には会えて遊べるのが当たり前だと思っていた。けれど、それは当たり前じゃなかったのだ。

この事をきっかけに、わたしには感しゃの気持ちが生まれた。毎日学校に行ける事、そしていつも遊んでくれたり、一緒に帰ってくれたりする友達がいてくれる事が、どれだけ幸せな事か分かったからだ。

「また明日」

そう言い合える友達を、わたしはこれからも大切にしていきたいと思う。